

オーディオ実験室収載

STAGE+を楽しむ(302)(HP 収載) —モーツアルトの《フィガロの結婚》—

1. 始めに

前報(301)に引き続き、STAGE+のモーツアルトの《フィガロの結婚》の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、STAGE+のモーツアルトの《フィガロの結婚》の演奏を選びました。

バリー・コスキー演出によるモーツアルトの《フィガロの結婚》

ウィーン国立歌劇場 (2023年)

収録日: 2023年3月17日

In the second instalment of his Mozart/Da Ponte cycle for the Wiener Staatsoper, director Barrie Kosky brings the Almaviva household to life with characteristic panache. The opera's romance and intrigue play out in a colourful world of Rococo architecture and 1970s costumes, while Philippe Jordan conducts a musical performance that the Wiener Zeitung praised as "an ideal mixture of elegant lyricism and concentrated expression". Not even an offstage crisis could deter this production's dynamic young cast: as captured here, the all-important role of Susanna is shared virtuosically here between Ying Fang (acting on stage) and Eva Nazarova (singing from the pit) after Fang suffered a vocal cord haemorrhage shortly before the performance.

ソリスト:

アンドレ・シュエン (バリトン)、ハンナ=エリーザベト・ミュラー (ソプラノ)、イン・ファン (ソプラノ)、マリア・ナザロワ (ソプラノ)、ピーター・ケルナー (バス)、パトリツィア・ノルツ (メゾソプラノ)、ステファニー・ハウツィール (メゾソプラノ)、ジョシュ・ロヴェル (テノール)、アンドレア・ジョヴァンニーニ (テノール)、シュテファン・チェルニー (バス)、ヴォルフガング・パンクル (バス)、ヨハンナ・ヴァルロート (ソプラノ)

演奏:

ウィーン国立歌劇場管弦楽団、ウィーン国立歌劇場合唱団、ウィーン国立歌劇場のエキストラ

指揮:

フィリップ・ジョルダン

曲目:

ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルト 歌劇《フィガロの結婚》K. 492



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結しています。また、ルーター→スイッチングハブ間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、OPT ISO BOX の AC アダプターの DC ケーブルに FX Audio の Petit Susie Solid State を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

今回、スイッチングハブ→PC 間 LAN 接続は、LAN iPurifier Pro の交換後に元に戻しています。

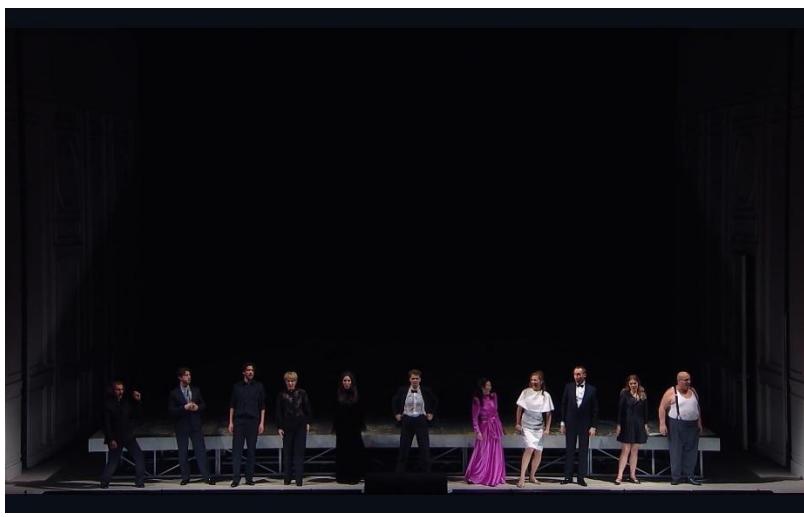
今回は、PC の受信からクロック入力の修理済の Brooklyn DAC+に送り出しています。また、下記のとおり、PC と Brooklyn DAC+の間の介在は、iPurifier USB からインフラノイズの USB アキュライザーに交換しています。試しに今回のクロック入力は ABS-7777 を適用してみました。

お馴染みの序曲から始まりますが、演出は、やや近代風の翻案で、テンポよく進行します。

オーケストラはピットの演奏なので少し曇り気味の音ですが、ステージ上のソリストの歌唱は伸び伸びと明晰で、お馴染みのアリアも聴きごたえがあり、合唱は迫力があります。

下記の画像は、お馴染みの「もう飛ぶまいぞこの蝶々」と「恋とはどんなものかしら」のアリアとフィナーレの場面です。

なお、クロック入力に ABS-7777 を適用するとブツブツノイズは出にくいようです。た。



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツや Crystal EpY-G や PC の仮想

アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX と電源交換した LAN iPurifier Pro を適用し、クロック入力の Brooklyn DAC+に送り出し、PC と Brooklyn DAC+の間には USB アキュライザーに交換した結果、お馴染みの「もう飛ぶまいぞこの蝶々」と「恋とはどんなものかしら」のアリアも聴きごたえがありました。

以上